

# 日本から アトピーをなくすために 今できること

この国では1000万人以上（国民の12人に1人）の方が、アトピー性皮膚炎に苦しんでいるのが現実です。

医療技術の進歩がめざましいこの国で、

何故、今なお増え続けているのでしょうか。

---

## ステロイド剤はアトピーを長期化させる

あなたの周りにも、必ず1人はこの辛さを経験している方がいるはずです。その方々の中には、一見アトピーとわからない肌でも、実際はステロイド剤なしには通常の社会生活ができない方も数多くいます。その方々の殆どが、ステロイド剤での長期治療を行ってきました。薬を外すと、仕事も学校も行けなくなることを、彼らはよく知っています。

ステロイド剤で本当に良くなるのであれば、アトピーに苦しみ続ける方がこれほど多くなるはずはありません。これは薬害なのです。そして、サリドマイドや緑十字の薬害より規模は大きいのに、国は対策をとろうとしません。ステロイド剤のもたらす莫大な利益を蒙る官僚・製薬会社・医師会などが都合の良いプログラムを作り、国営のマスコミなどを利用してすり抜けているのです。(そんな者たちの給料を、その被害者の税金で払い続けているのも問題です)

さらにアトピー性皮膚炎の治療の専門家であるとされる皮膚科医も、その現状に気づきつつも声を出してまで問題視する医師はいません。過去には何人かの医師がステロイド剤の危険性を唱える声を出しましたが、アトピー性皮膚炎に携わる医師ではなく、自己の名誉や保身に関係のない人物でした。

私はそんな環境に偶然遭遇したことで、自らがこの問題に立ち上がらなければと、23年前に当所を設立し、症状に悩む方々のサポート役として試行錯誤を繰り返しながら、これまで約30000件の事案に対応してきました。生後まもなくの赤ちゃんから88歳の老人まで、あらゆるケースに遭遇し、現実から目を離すことなくアトピーと向き合った中から多くのことを学び、この自然との関係、人間の見えない世界が症状に関与していることも判ってきました。アトピーが物理的問題だけで解決できる症状であれば、誰もここまで困る人はいません。国が進めるガイドラインは、そのこと自体、逆方向に進んでいるのだから解決とは程遠くなることは間違いなく、現実にはアトピー性皮膚炎は1000万人を超え、なお急増しているのです。

---

## 医師でないからこそ、見えた真実

ところで、私は医師ではありません。けれど、医師ではないからこそ、約10000人もの克服者をサポートできたと自信を持って言うことができるのです。対象者とまっすぐ対等に向き合うことで、いろいろなことが判りました。百種百様の対象者と家族、自然環境によって改善期間の変化も確認し、年齢、性別によってもその差が出ることも肌で感じてきました。また、便検査約7500件、毛髪分析約4000件から見えてきたことや、当方相談メール15000件も(返答できなかった方々は2000件程あり、その皆様には大変申し訳ありませんでした)アトピー性皮膚炎克服の重要ポイントとなってきたことは間違いありません。

ここから先は、私がアトピー性皮膚炎に対し感じたこと、会得したことを率直にお伝えしますが、皆様とは違う理論かもしれません。途中いやであればご退場ください。

すべては閲覧する皆様のご判断です。

---

## 国の治療ガイドラインで患者は救えない

まず最近、国営放送(NHK朝イチ)を駆使して大宣伝をかけた、皮膚科学会のガイドラインに

基づくステロイド剤治療についてです。発端は15年ほど前、ステロイド被害裁判が数件行われたところにあります。私も何度か川崎の裁判へ出掛け、原告、被告の弁論などを傍聴し多くの矛盾を感じました。そして結果は和解。それまでの弁護士費用、裁判費用などを含めると原告は多くの損害を被った上、世間に名前をさらされただけで得るものは何もなかったのです。弁護士、裁判費用を含むお金の問題で進むことが出来ず、結果的に和解の道しかなかったというのが実情でした。相手の調査を含め、お金が尽きるのを待つ格好での和解は、残念でなりませんでした。

それからすぐに国は医師や医師会を守るために、皮膚科学会と厚生省（現厚生労働省）でスキンケア・薬物療法（ステロイド剤・抗生剤等処置）・アレルギー除去の基本治療ガイドラインを作り、現在までその変更は行われていません。つまり、このガイドラインは薬害裁判対策なのです。

その後、ステロイド剤の副作用を訴えた免疫学の権威「安保徹先生」の理論に日本中が沸き、多くのアトピー患者が安保先生に期待を寄せたものの、アトピー治療においては素人であるため対応できず、結局その理論も薄れてしまいました。ステロイド剤（フリーステロイド…誰にも効果あるが、受容体に変化し、その後自己のステロイドに反応しなくなる）が作用した後、また、余剰分のステロイドは血中酸素と化合することで酸化して「酸化コレステロール」となり、排泄できなくなるという理論自体に間違いはありません。つまり、ステロイド剤を長期継続すると皮膚は象化するのは、酸化コレステロール化することの危険性を真っ向から訴えた彼の勇気はすばらしかったのです。しかしその後、アトピーに対する対応は皆無となった結果、ステロイド反対論は再び廃れ、国が定めたガイドラインに沿った治療が、全国の8割以上の病院で今日まで続けられているのです。

その一方で、ステロイド剤を使用せず治療を行いますと謳った病院も僅かですが根強く存在していることも事実です。それも裏返せば、世間にはまだまだ反ステロイド派が多い証拠であり、ステロイド剤によって症状を悪化させて駆け込む患者が後を絶たないからこそなのです。

けれど、ステロイド剤を塗らないと謳っても、あまりにも症状がひどければビックリして、取りあえずステロイド剤処置を進める報告も多くあります。漢方医も同様のようです。彼らの殆どは、ステロイド剤を外してもその後の解決方法を知らずに謳っている場合が多いのです。それでも脱ステで有名な医師の中には、当方のやり方とよく似た治療法を取り入れている方もいますが、惜しい…というところですね。ガビガビ療法という皮膚を乾燥させて感染を防ぐという方法になりますが、異物の侵入路を意識していないことが問題なのです。その他、自然のことや体表面の構造無知、乳幼児の患者の場合は見えない母親と子どもの関係なども非常に重要であることも理解していません。それでも年々少しずつ改定しながら、当方の療法まで辿り着くことでしょう。そうすればようやく私の役割は終了ということになります。

## ステロイド剤を使いこなせる医師はいない

「ステロイドは、人間の体内で生成されている成分ですから安全なんですよ」。ステロイド剤に抵抗を示す患者に、医師は決まってこう言います。しかし、人間の体内で産生されるステロイドホルモンは、一生80年として約1gです。平均で1年の産生量は、多くても0.01gとなるのです。それを某大学の皮膚科では1ヶ月200gまで問題ないというのです。何を根拠にこんなことを言うのでしょうか？その量が、体内に侵入した場合はどんなことになるのでしょうか？作用以外の余剰分は何処にいくのでしょうか？何処かに排泄させなければならないのだけど、血中に侵入したホルモンは、酸化して酸化コレステロールとなり排泄器官から排泄できなくなるのです。余剰分は、第3の排泄器官

「皮膚」から排泄しなければならないのです。大きな分子となり排泄されれば、その部位は「象皮膚」となるのです。この分量判断のミスから、末端の治療では医師それぞれの判断で患者に説明するので、患者は何を信じてよいか判らずジプシーとなるのは当たり前です。

国営放送NHK「あさイチ」に登場した、東京慈恵会医科大学附属第三病院「上出良一先生」（現在は開業）も以下のように説明していました。「皆さんステロイド剤に対して誤解されている方が多く、薬の塗り方が問題なんです。指の第2関節くらいの量を、10センチ範囲に塗るのが大事なんです。強くこすり付けてはだめですよ、軽くなでるように塗るんです」。メカニズムなし、副作用告知なし。番組に出演した20歳過ぎの女性は、今まで続けていた脱ステロイドをいとも簡単にストップさせられました。すると当然、ステロイドの強烈な作用で一時的に脂の出た皮膚となりご本人は喜んでいました。けれどそれは本当の喜びだったのでしょうか？NHKは女性の経過追跡をし、悪化した際は良一先生と共に責任を持てるのでしょうか？この番組を観た多くの患者視聴者はどう思ったのでしょうか。少なくとも、当方会員の皆様は落胆していたようで、多くのコメントを頂きました。10数年前の金沢大学の竹原氏のコメントから何も進歩していないのに「アトピー最新医療」とNHKは報じました。

結局、医師はステロイドホルモンがどれくらい体から産生されて、どのように作用しているかもまったく知らず、なおかつ皮膚の構造がどのようになっているかも知らないでアトピー性皮膚炎の診察・処方を行っているのです。

## ステロイド剤は長期使用できる薬ではない

この薬で起きる重大な副作用の中に「自律神経系」への影響というものがあります。これが起きた場合は大きな問題が発生します。先程、ステロイド剤を使い続けると自身で生成するステロイドホルモンが体に作用しなくなることはお伝えしましたが、この薬に自律神経系が侵されると、季節を感じなくなる、体温調節が出来なくなる、血糖値血圧が維持できなくなる、男性ホルモン・女性ホルモンのバランスが狂うことで起きる異性化への変貌等々、症状改善までのハードルがさらに高くなる一方なのです。幼少から長期間ステロイド剤を使用してきた多くの成人ステロイド被害者はその状況を余儀なくされ、厳しい環境の中で社会生活に耐えているのです。私たちがさえ眼を塞ぎたくなる状況までなった方は数え切れません。特に若い女性は、痒みと不安に苛まれ、ストレスにより細胞なども衰え、年齢に比べかなり老化した感じに見えるのは私が思うだけではありません。ご両親の気持ちもいかばかりかとお察しするものです。何としてもこの改善法を確立させると強い気持ちにさせられたのも、ステロイド剤の被害に遭われた多くの方々を見たときでした。

そして今もお、長期間の処置で出口が見えなくなり、夢も希望もなくした多くの方が恐ろしいスピードで増えているのです。まだ患者が幼少期であれば、いろいろな言葉も通じますが、人目を気にする年齢になると、親の言葉は通じません。「お母さん、私の皮膚を元通りにして…なんで友達と肌が違うの？なんで私だけ？」となるのです。もう親は何も言えないのです。気を使いながらの生活は親も大変です。何処にも責任を持っていく場所はないのです。そうして医師達は国のガイドラインに守られ、現在も大きな顔をして診察しているのです。

この苦しい症状、おそらく世の中の病気でも一番苦しい症状ではないでしょうか。50年前にはあまり耳にしなかったアトピー性皮膚炎…それは、ステロイド剤という恐ろしい麻薬が大手を振って販売され始めた頃であり、少子化が謳われ始めた頃からなのです。副作用さえ把握されていな

い万能の薬「ステロイド剤」は、多くの皮膚科・小児科で患者の皮膚に使用されてきました。そして、次第と副作用が囁き始めると、官僚や製薬会社などがガイドラインを作ったり、マスコミに東大の教授を投入したりと馬鹿げた理論で国民を騙し続け、結果的に1000万人を超す被害者が発生してきました。

## 産婦人科医が、乳幼児アトピーを作る

ここまでアトピー性皮膚炎患者が増えたもう一つの大きな原因は、出産に携わる産婦人科にあります。少子化と共に出産数は減り、また開業医も増え、溢れるような利益に慣れていた産婦人科医は、1件あたりの出産費用増を狙って編み出した「産道検査」によって、陽性を示した妊婦の産道への抗生剤処置という点数が出来たことで、3~5万円の増収となることを思いつき、いとも簡単に産道へ抗生剤処置をするようになったのです。さらに、強欲な医師は、年齢や状況を巧みにコメントし、帝王切開を薦めたり、出産後に出やすい黄疸症状を利用して紫外線照射を行ない、国から支給される出産費用をはるかに上回る売り上げを目的としているのです（全ての産婦人科医ではありませんが）。このことを、私たちは相談者からの聞き取り調査で発見したのです。アトピーなどのアレルギー体質ではないご両親から、何故アトピー児が生まれるのでしょうか？ご本人たちも「なんで私たちだけ…!」と嘆き苦しんでいるのです。当サイトでは、創設当時からこの事実を告知していても誰も研究しようとは言わないですし、相談にも来られない。産婦人科医は、出産、そして出産後1ヶ月で手を離れるから、アトピーは自分の責任ではないと判断しているのです。

そうした創設当初からの聞き取り調査から、生後まもなくのアトピー症状は、出産前の膣抗生剤処置、新生児への抗生剤処置や黄疸に対応する紫外線治療、妊娠中の性行為抑制、帝王切開、切迫早産処置、陣痛促進剤処置などによって、産道で受け継ぐ免疫の移譲が出来なかつたり不足していたり、産後の処置で減らされるなどで、腸管に重要な免疫条件を造れなかったことが原因で起きると断定できたのです。つまり、生きる条件整備といってよい免疫構成が、赤ちゃんの腸管で育たないことがアトピーの引き金になることを発見したのです。

免疫の保持は、この雑菌社会で生きるための条件です。その多くは腸管で構成されており、腸管から体細胞に必要な異物が侵入したり、ウイルスや雑菌が蔓延すれば、排除するために熱を出して死滅させたり、下痢や咳・くしゃみ・鼻水で追い出すのです。ただ、それでもその場で留まる異物に対しては、直接攻撃できるように抗体を持って配備し、即排除できるように神が身体を創っているのです。

この免疫の主軸となるのが、母親の産道に棲息配備する乳酸菌なのです。産道に棲息する有用乳酸菌を出産時に子へ伝え、生きる条件を与えるのです。しかし産婦人科医は、母子にごく僅かな不安要因を見つけると、すぐさま薬品などで排除にかかります。命を守るため致し方ない場合もあるにせよ、もっと深く考えるべき大切な部分を担っていることを、彼らは自覚しなければいけないのです。

## 小児科医・皮膚科医たちの驚かされるコメント

出産後1ヶ月もすれば、関連の小児科医へ引継ぎされ、産婦人科医はその後の赤ちゃんの症状など感知せず、次の出産に向けて格闘しています。産婦人科医の処置により免疫過剰で生まれたお子様は、丁度この時期から発症し始めます。その症状を確認して小児科医は、「まだこの時期乳

児湿疹かアトピーかはわかりませんね、石鹸できれいに洗って保湿すれば改善しますよ」と、保湿剤を処方し、「酷くなったらこちらの薬を塗布してください」とステロイド剤を処方します。さらに、「お母さんの食事が問題です」と食事制限を行なわせ、お子様にとって重要な母親の不安を募らせて、たんぱく質の多くを制限させ、母親のストレスも拡大してゆきます。母親の食事問題でお子様の症状が発生しているのであれば、日本の食材では殆どの子どもが発症しているでしょう。少しの期間通院しても改善が見られなければ、アレルギー検査なども行い（一部の医師は、この年齢では出来ないと検査を断る）、母親の食事制限を確定化させることとなります。妊娠中の食事のことから母親に責任を押し付けて、症状原因も説明せず、スキンケア・保湿処置・母親の制限の3本立ての処置。そしてそれら全ては、改善から逆方向へと進む処置となっているのです。

一方の皮膚科医は、「食事は一切問題ありません…何を食べても構いません。ただ、まだ軽いうちのこの時期に、しっかりと改善させてストレスをはずしましょう。」とステロイド剤処置の一点張りです。少し躊躇すると、「お母さん、どこの情報かは知りませんが、この薬は国が定めた処置です。副作用なんてありませんよ」と、その処置理由も説明せず、ガイドラインに沿った方法だと我が理論ゼロとなっています。さらに、「本当にこの方法でこの子は改善するのでしょうか?」と聞けば、「大丈夫だと思いますよ、一生のお付き合いになることも稀にありますが…」と全く他人事のコメント報告が多くあります。さらに追求すると、「じゃ、他に行ってください」と投げやりなコメントとなったり、怒り出したりするそうです。

その他多くの呆れたコメント報告がありますが、総括して「小児科医・皮膚科医」は、専門家でありながら全くといってアトピー症状に対して根源も処置方法も理解していないことがはっきりと判ります。逆に、皮膚科医や小児科医が今の処置を行なっているから、多くの被害者が発生していることとなります。ということは、これらの医師にかからなければ、逆方向に進まない分、根源解決する方法のみで改善できることになるのです。

安心だけでも与えられる医師であれば良いのですが、「このままだとお子様大変なことになりますよ、脳が侵されますよ」等と脅すことだけは天下一品なのです。もう、皮膚科医、小児科医がこの日本に居なければ、アトピーの方々はこれほど苦しまないのでは?と勝手に思います。極端なようですが、これは私の率直な気持ちです。

## 我が子をアトピーから守る術

医師たちの間では、アトピーは遺伝するというのが通説ですが、では何故、アトピー体質でないご両親からアトピー児が生まれ、逆にアトピー体質のご両親からそうでない子が生まれるのでしょうか。当方アトピーのお母さん会員（乳酸菌処置等の対策済み）からも多くのお子様が出来てきました。ご本人たちもまたアトピーになるのでは?と不安な気持ちで出産を迎える方も多いのですが、結果アトピー児は100人に1人くらいの確率で少なく、当方の理論に間違いないと認識できました。ただ、1%の方の発症は、致し方ない出産環境にあつて、ご本人も納得した出産です。その赤ちゃんも当方の理論から、ステロイド剤の処置は拒み腸管調整を含む当方理論で全員1年程で完全克服するのです。（サイトだけを見てスタートした方の中には、それ以上の期間を要することもあります）

確かにアトピーの母親は、アンバランスな産道菌バランスであり、この結果は驚かされるばかりです。通常、アトピーで苦しむ母親の腸管は便検査によっても通常の方の100~1000分の1の菌数であり、腸管と産道の菌は繋がっていますので、当然出産時にも雑菌が多く、乳酸菌の移譲は少な

くなるためにアトピー児の発症率は高くなるのです。けれど、母親が乳酸菌を摂取して腸管と産道内菌バランスを調整し、さらに膣内直接に乳酸菌を塗布して出産に備えること、膣内の浄化を促す妊娠中の性行為、ストレスをためないための笑顔対話などの対策をすることで、厳しい乳児アトピーから免れることができるのです。このことから産道バランスによる発症起因説は殆ど間違いありません。また、出産後にも注意しなければいけません。医師たちの行う過剰な処置によって、せっかく母親から受け取った乳酸菌が減らされてしまうからです。少しでも黄疸数値が出たら紫外線治療、菌が出れば抗生剤、ウイルス感染にも抗ウイルス剤。血液検査での異常告知による様々な処置によって、小さな赤ちゃんの腸管バランスは簡単に乱されてしまうのです。

これらの産後処置などせずとも、赤ちゃんは、この社会に自力で生まれてきたのであれば、自分で解決するすべを得ているのです。何もしなければ自分で解決できる身体になっているのに、検査数値だけですべてを決めてしまう。そしてその数値を見て、必ず脅すのです。「このままだと赤ちゃん大変なことになりかねません」と。処置を断ると「放っておけば脳に問題が起きますよ、死にますよ」と最後の殺し文句で薬漬けにしていきます。(多くの聞き取りから確認)そして、居直って「本当に先生に預ければ大丈夫なんでしょうね…ここに一筆書いてください」と言えばどんな医師でも尻込みするのです。

## 乳幼児アトピーは短期完治できる

このように、生後まもないアトピー発症の第一原因は出産環境にあることは疑いようがありません。私がこのことに気がついたのは、腸管内部が「外部」であると気がついたからなのです。腸管内部は身体の内側にあっても雑菌やウイルスのついた食材や水、口や鼻から浸入する多くの異物が通過するラインなのですから、外部と言うのは当然のことなのです。その外部をよく分析してみると、粘膜構成となっており、何重にも菌が重なり合って異物の侵入阻止していることに驚かされます。そして、もう一つは皮膚も腸管内部も基本的には弱酸性で維持し、空気中で生育する雑菌群やウイルス群のph7の中性の異物に対して侵入できないようにしているのです。この条件整備が出来れば、異物の侵入は止まり、抗原抗体反応や免疫過剰はなくなるということです。簡単なのです。この条件整備することが、アトピー克服のための最低条件と言えるでしょう。

このアトピー性皮膚炎の根源は、外部(腸管内部)から異物が侵入し、体はそれらの排除に躍起になり、肝腎機能で排泄処理できなかった異物は、2回目の循環では腸管に戻せず、第3の排泄器官「皮膚」より、弱い皮膚に痒みを感知させ掻き崩させ排泄しているのです。いや、そうしなければ生きられないから行っているのです。そのために「爪」が存在するのです。

当然、皮膚は外部です。雑菌の多い空気と接触している皮膚は常に危険にさらされており、異物の侵入を常に阻止する免疫を保持して人間は生きています。その皮膚の構造は、粘膜上部に嫌気性、好気性の菌が重層になって存在し、雑菌の排除や異物の侵入を直接阻止しているのです。また、これらの菌群の生育条件は、ph5前後の弱酸性を維持しながら、空気中(ph7の中性)の雑菌群が生育できないように整備されています。また、嫌気性のプロピオニバクテリウムは、皮膚が乾燥したり、自己層に酸素が侵入しそうになると、皮脂腺から皮脂を出せるように直ぐに信号を送り、皮脂をその部位に配置するように出来ています。そのために毛穴の周囲に集中して棲息し、その直ぐ下部にある皮脂腺へ信号を出しやすいようになっているのです。

この事は、医師の殆どが理解できていません。「そんな説はない!」と言う方が殆どでしょう。だ

から、安易にphが中性である油脂形の保湿をしたり、菌を死滅させる抗生剤を処置したりします。もちろんステロイド剤も同様です。一つの湿疹を見ても医師はアトピーだ、いやそうではない乳児湿疹だ、今のところわからないなど三者三様の診察をします。そして、他の視野の処置を軽んじて自分が一番のような顔をしています。患者さん本人は首をかしげることが多かったのではないのでしょうか。上記のことを理解していないから、何も見えなくなっているのです。また、先述の通り、小児科と皮膚科医の見解も大きく異なるのですから、患者としてはどうしたらよいのでしょうか。

答えは簡単です。体の外部と言われる腸管内部、皮膚表面には大量の有用常在菌が棲息し、異物の侵入を防ぎ、phを弱酸性で維持することで正常な環境となることを覚えておけば、医師などに指導された処置が良いか悪いか判断できるのです。これがアトピー克服の大半であり基本なのです。

上記の理論に基づく処置をすることで、すでにお子様が乳幼児アトピーを発症してしまった場合でも、約1年で完治できます。私はこれまで数多くのアトピー児のお母さん方と面談しました。何故でしょうか？と涙ながらに訴えるお母さんは、面談終了後には笑顔で希望を持って帰られます。それはこの簡単な理論を会得したからです。期間限定の努力で、再発のない健康な体になることを確信できたからです。(実践内容は後記で詳しく説明いたします)

けれどその術を知らないご両親は、生後まもなくのアトピー発症に驚き、すぐに皮膚科や小児科へ飛び込むのが普通です。そして、早く肌をキレイに戻したい、痒みをなくしてやりたいという願いから、迷うことなく「魔の薬ステロイド剤」処置に踏み込むのです。医師は、その処置において引け目を感じたり、罪悪感など微塵もありません。「この症状は、原因も治療法も確立されていないんです」と残酷に言い放ちながらも、その処方はその場しのぎの万能薬「ステロイド剤」なのです。ぜひ1度「先生、何が原因でこの症状が起きるのですか?」「言うとおりにすれば本当に完治するのですか?」と質問してみてください。答えられる医師はいません…というより、必ずといって良いほど怒り始めます。知らないから、質問が怖いのです。

## 痒みは生きるために必要だから起こる

アトピー症状で何より耐え難く、大きな問題となるのが「痒み」です。痒みは異物の排泄、異物の侵入阻止信号によって発生します。よって、この信号が無くなれば痒みは無くなり楽だと思ってしまうが、この信号が無くなれば人間は生きて行けません。異物の侵入が容易になり、体内に侵入し全身を回れば人間は生きることが難しくなります。だから、アトピーの方の痒みは、絶対に必要だから起きているのです。多くの方は、この痒みさえ取ればと望むのですが、この排除は本当は危険なことなのです。よって、この社会で本当に痒みを取る薬はないのです。ムヒなどは本当の痒みをとるのではなく、皮脂を強制的に出させバリアを張るだけなのです。それは先に述べたように危険な方法となります。

しかし、痒みストレスによって、体内から大量の活性酸素が発生し、体の各細胞を破壊したり、有用菌群などを異常減少させます。いわゆる、抗生剤処置と同じことなのです。痒みは必要、けれど長く続けば痒みが体を壊すし…と、何をしても良いか判らなくなりますが、自力でこの痒みストレスをなくす根源をイチから解決することしか、本当の改善は見られないのです。

痒みによる活性酸素発生で、体内のミネラルも大きくバランスを失います。ミネラルなしでは人間は生きていけません。特にマグネシウムやカルシウムのミネラル減少が顕著となり、自律系のバランスも大きく乱れてきます。あまりの痒みの辛さ、痛みで神経バランスを失うと目つきが一気に変わりま

す。特にマグネシウムやカルシウムが激減すると三白眼となり、人相も変貌します。

## 5つの実践でアトピーを克服

上記の問題を具体的に改善するために、当所では下記の処置をお勧めしています。(ちなみに当方の利益とはまったく関係ありません)

### ① 腸内細菌の調整を行う

発症の原因は、受菌バランスが狂ったためなので、ここの調整は不可欠です。1歳未満のお子様には、乳酸菌粉末の摂取、1歳半以上で離乳食が正常に行われている方には手作りヨーグルトで対応していただきます。克服に重要な肝腎機能の活性にも関与します。

### ② ミネラル調整を行う

痒みによりミネラルバランスが崩れるため、ここの発症の原因解決が目的です。当方推奨のミネラル濃縮液「七海」を湯冷ましやミルク、お茶などの100mlに1滴程度を添加して摂取します。体重の3%リットルを基準としています。

### ③ 皮膚phを弱酸性にする

皮膚バリア機構は「皮膚常在菌」にあるため、これらの有用菌を正常に棲息させれば 皮膚も正常となります。「四輝水」というローションにて皮膚phを安定させ雑菌を防ぎます。

### ④ 皮膚を乾燥させる

アトピー症状での大きな問題は「感染」にあります。この感染には水分(体液は感染の最悪条件)が必須となり、患部を絶対に濡らさないことが早めの解決に直結しますから、風呂に入らないことが早く良くなる秘訣です。

▶ 脱入浴について <http://www.atoppos.co.jp/html/8datsu.html>

### ⑤ 季節の信号を毎日受けて体内時計を合わせる

1歳未満のお子様は、毎日の環境(季節)が変化していることから、初めての経験をするようになります。大人は、これまで多くの季節を経験していますので、春や秋にも既設対応できる体を作り出しています。人間は常に一定の体温を保持して、正常な働きをしています。それぞれの季節環境下では体感温度も夏冬では30度を超えることになります。体温を36度一定に保ち正常な体を維持するためには、代謝システムの上下によって、常に一定の条件を作り出します。体内の代謝率調整役は、ステロイドホルモンをはじめとする生理物質が大きく関与して、外気温に対しての代謝調整を行っているのです。夏には、ステロイドホルモンが多く産生され、冬は保温のために逆となります。よって、夏場に多く産生するステロイドホルモンによって、抗炎症や抗ストレス作用が上昇して、改善パターンとなることを多くの経験から確認しています。

人間は体温を一定にする事が条件であり、生後まもなくのお子様は、その調整機能は整備されていません。春と秋の湿度や温度など同様の日も多くありますが、体内の環境は180度違うのです。春は熱に向かって代謝機能上昇のために生理物質産生増となり、秋はその逆となります。

その季節を感知することが、この社会で生きるための条件となるのです。その季節を知らせるのが地球から発する「磁力線」なのです。この信号を正常に受け取ることが、このアトピー症状を改善するための条件ともいえます。

家の中では、電磁波や鉄材が多く磁力線（磁石）は吸い取られ、直接体へ与えることは出来ません。よって、障害物のない屋外で受けることが必要となるのです。毎日、できれば午前中に最低30分は外に出て、季節信号を受けて体内時計を合わせることも克服の条件となります。雨の日や雪の日などは、最低でもベランダで信号を受けましょう。

この5つの基礎の実践において、皆様が最も抵抗を感じるのが④番における脱入浴なのではないでしょうか。確かに病院などでは、明確な根拠も示さず「皮膚は毎日風呂に入って常に清潔にし、風呂上りは保湿しましょう」となるのですが、アトピー克服のためには逆効果になるのです。皮膚の構造は、皮膚粘膜上に棲息する2層の菌群は「好気性菌」と「嫌気性菌」になっており、下層に棲息する嫌気性の菌層が崩れれば、正常な皮膚粘膜は維持できません。風呂の浸透圧は、空気中の数十倍強く、風呂の中では指先1本で体は浮き上がります。それほどの浸透圧が皮膚に掛かれれば、下層に棲息する嫌気性の有用菌は、酸素を受けてやがて死滅します。特にアトピー症状の皮膚は、粘膜に隙間が多く通常の方とは比べられないほど酸素の侵入が多くなります。当然、有用嫌気性菌は弱り、徐々に数少なくなってゆき、弱酸性維持の皮膚は徐々に中性化へと上昇してゆきましょう。さらに、やっと出来た瘡蓋は、1分もしないうちにふやけ、皮膚から外れてきます。風呂上りには、その部位から体液がにじみ出て、空気中の雑菌の棲息条件を満たすのです。（体液はPh7前後）また、その浸透圧で体温は湯音度と同様に上昇し、通常の方は風呂上りに汗を出して体温を正常化してゆきます。しかし、アトピー症状の方の多くは、自律系への感知情報が逆転して、熱を閉じ込める方が多く、その熱を出さなければ体は正常作動をしないので、無意識で柔らかい皮膚部位や、傷のある部位から熱を逃がそうと痒みを与えて爪で掻き破り熱を放散してゆきます。風呂上りに異常な痒みが出るのはこのためです。

これまで多くの方々がこの実践で解決を早めています。それは、そのことを不安に思って進行した方と、信じて実践した方の克服期間は、大差で脱入浴の方が短いということを確認しています。（医師の専売特許、統計学ですが）人それぞれ環境も違いますし、正確な差は判断しにくいですが、数百人の統計となっており、理論も間違いないと確信しています。

お風呂やスイミングは、完全に良くなってからのお楽しみにしてください。中途半端に良くなったくらいでは、感染が起きて逆戻りという方も見ており、ご本人、ご家族のショックは厳しく、立ち直れず再度ステロイド剤で一時的対応された方もいらっしゃいます。まず、完全に克服できるまでは簡単なシャワー程度で頑張ることで。

この症状の一番の大敵は「感染」です。とにかく瘡蓋（自己の絆創膏）を作って外部異物を阻止することを心がけましょう。油脂系の保湿は先述の理由で絶対NGです。

## そして一番重要なのは家族の絆

これらの処置で、上記に述べた基礎条件はある程度解決に至るでしょう。しかし、解決の条件は有用菌の棲息数が正常化（1平方cm当たり約100万個）するということですから、ミクロの菌がどんなスピードで生育するかで大きく差がでます。菌の大きさ増殖スピードから大方の計算をすると、

1cm四方の改善に約1ヶ月を要することとなります。このことは、全ての環境がそろい、改善条件となった場合となりますので、その間に別のストレスや環境変化が起きた場合は、その限りではないということになります。

理論の理解が浅く、油断による処置の不徹底で再発をしたり、症状の厳しさに不安を感じてステロイド剤に戻ったりなど、特に患者がお子様の場合は、両親の理論会得が肝心です。両親の意見不一致、祖父母の無理解などにより、結果、お子様にとってなくてはならない存在である母親の不安は高まり、それがお子様の心と身体へ繋がってしまうのです。

出来るだけ、改善に万全な環境作りをすることが重要となります。特にご家族で意見の食い違いなどが発生したときは、本人のストレスは多大なものとなります。先述したように、特に5歳以下のお子様については母親のストレスが大きく影響いたしますので、まずは母親が理論会得をし、克服までゆるぎない意識を維持することが重要です。

すでに独立された大人の方については、ご本人の意識となりますので、まずご本人が完全に理論理解し、克服の出口に向けてまっしぐらに毎日を過ごすことが重要です。また、結婚されている場合はご主人(奥様)を含めた関係の方々全員に理解を頂くことが重要です。特にご夫婦の理解が重要です。お子様がいる場合も詳しくお知らせすることも必要ですし、義理のご家族にも出来るだけ判りやすくお知らせし、応援を頂くことも薬となりますね。家族の愛の言葉は、患者ご本人にとってこの世で最高の「薬」となるのです。

## アトピーを克服した先にあるもの

それでも、痒みや痛みに苛まれ、そばで見るご両親、ご自身の気持ちは大きく揺れ動きます。「本当にこれでよいのか…?」そして、多くの情報をあさり、サイトの作りや表向きの理論で心が動かされ、酵素療法や温泉療法、ガビガビ療法、漢方治療などに向かわれる方、また、健診時などに保健師さんからの追い込みで病院へ逆戻りと言う例も多く見受けられます。

ちなみに温泉療法は、ただただ入浴、1日4時間～半日の入浴をさせ、気持ちをリラックスさせて改善する方法ですが、根源解決が出来ていないために殆どの方が数ヶ月、数年後には再発を起こし、手の施しようのない環境を作り上げていました。長時間の入浴により皮膚粘膜に棲息する「有用常在菌」が水分中の酸素で死滅し、粘膜が崩れ色はメラニン色素により黒色化し、改善するのに多くの時間を要することになります。最近では乳酸菌などのサプリメントも取り入れ、情報に遅れないようなサポートと、食を中心としたイメージを作り上げ、サイト構築の素晴らしさで安定した運営を行っているようです。しかし、物理的処置以外の理論はあまりないように感じます。

酵素療法においても、酵素サプリを摂取するのみです。確かに効果が即効で現れる療法です。しかし、その継続は体バランスを失い、この酵素なしには動かなくなるのです。それは、酵素やステロイドホルモンなどは、全て自己記号を保持し、必要細胞と合体することでいろいろな作用が起き体が動いているからなのです。酵素サプリは無記号で体内へ侵入し、そのポイント細胞にも関連細胞にも作用していくために、受容体に変化し、本来受けなければいけない自己記号成分を受けられなくなります。摂取をストップすると体は正常に動かなくなるのはこのためなのです。

確かに、アトピー克服までの道のりは平坦ではありません。途中何度も大きな不安に苛まれるでしょう。けれど、ここで頑張れたなら、この先何があっても乗り越えられます。是非とも克服まで不安に負けず、その後の素晴らしい人生を掴み取ってください。

---

## 主治医は、あなた自身です

これまで何度もお伝えした通り、医療現場における我が国の最新アトピー治療は最高で30%程度の進行であり、残りの70%は置き去りにされることになります。もう医師や私腹を肥やす官僚に頼っても、自分や我が子の体は守れないのです。あなた自身がしっかりと体のことを理解して守らなければ、自分やお子様の一生が台無しになるのです。途中厳しいこともあるでしょうが、体の仕組みを覚えて一步一步前進していきましょう。そのためであれば当方は力の出し惜しみなどいたしません。特にお子様の改善には全力を尽くし完全克服のためのサポートを惜しみなくいたしますし、これからこの社会を生きるために必要なことや家族の健康のために必要なことは何かなど、克服までの期間で理解し、これから先に家族が健康で過ごせる条件をお伝えします。

---

## 人間は、食べて生きることが基本です

人間に必要な成分は約3000種以上もあります。その必要な成分を選択して食べているでしょうか？でも、無意識に体はその成分を作り上げているので生きてゆけるのです。しかしそのバランスが少しずつ狂うような社会ですから、修正をしながら生きる必要があります。難しくなどありませんし、お金も掛かりません。

これらのことを基礎の当所では、平成6年より本を3冊出版、新聞掲載、雑誌寄稿、アトピーサイト構築など多くの情報を発信してきましたが、1000万人のうちまだ約2万5000人しか接触できていません。面談してしっかりお話できた方の理論理解は完瑠ですが、その他の方の把握度はわかりません。当時から、腸内細菌や皮膚常在菌の重要性を大きく訴えてきましたが、多くの医師や研究者からは一同に腸と皮膚は関係ないと批判を受けました。しかし現在では、乳業・製薬メーカーを中心にアトピーと乳酸菌というテーマをベースに経済進行をしています。素人だった先生方が、いかにも自分が先頭に立って研究をしたんだというような顔をしてマスコミに登場します。そして、治療・臨床となると結果的にステロイド剤処置となるのです。

---

## 国や医師会がこの理論を実践すれば3年以内にアトピーはゼロ

「えっ」と、お思いでしょうが事実なのです。

- ① アトピーのお子様生まれない出産前の考え方の会得と実践
- ② もし、アトピーが発症しても1年以内に改善できる方法を実践
- ③ 今アトピーで困っている方を3年で解決させる方法の告知と実践

①～③が本当にできたら、この国からアトピーで困る方は、3年以内にゼロとなるのです。(一部今お困りの方で、程度により3年以内に改善できない方も少しは出てきます)

どうです、凄いでしょ。でもこれを大きく展開すると、誰かが困るのでしょ。私は数時間後にはこの世にはいません…というくらい大きな利権なのです。だから、静かに静かに一人一人を確実に前進できるためのサポートを続けています。

## アトピー克服メモ

## ⇒ 夏のアトピー治療は海水浴が一番！

海の波動か！いや、微生物か！今まで多くの方々が、海で助けられた。  
15年ほど前、全身の炎症で、6月に海に行き続け8月には回復した大学生の女性から始まった。  
海が良いということで海の家にバイトに行って、見る見るうちに回復して、結果的にそのまま克服したのだった。

その後、多くの方々へ海治療を紹介して、確実に回復してゆく。秋に悪化する方も多いが、自力で回復することの喜びを覚え、薬がなくても戻ることを体で理解することになり、頑張れるようだ。子どもにおいても、海に入ると最初は異常に滲みるし、泣き叫ぶようだが数回後には自分から入ろうとしている。やっぱ、人間は海が好きなんだね。

太古の昔は海の生物だったからかなあ。海は力強い！15年位前に日本海で座礁したロシアのタンカー「ナホトカ」から流出した油で福井・加賀沖では30年間は復元できないだろうと専門家は言い放った。しかし、どうだろう。その10分の1の3年間で砂の中から石の裏全ての油を微生物が食い尽くして綺麗にしてしまった。ここでも海の微生物だ！

肌の雑菌群は一気に排除でき、元々棲息する皮膚常在菌は守るシステム。海に行った帰りに炎症部位は全てカサブタとなり、カサブタ部位は落下するケースも少なくないのだから、海は凄い。

もう一度、海に戻ろう！

## ⇒ 4ヶ月健診、6ヶ月健診

気をつけなければ、赤ちゃんがステロイド地獄を味わうことになる。「このままだとお子さん、大変なことになります。下手すれば死にますよ」と、脅して大きな病院へ紹介状を書いて送り込む。検査数値を差し出して、「この数値が異常です。脳に感染すると厳しいことになります。取りあえずここを回避するためにステロイド剤で処置しなければなりません」と、地獄の門をたたくことになる。そして、医師会は製薬会社のために1000万人という膨大な数の患者を作り上げたのだ。

## ⇒ 風邪をひけえ～！

ハックショーン～！子どもは3回風邪をひくと改善する！1歳前後の子どもは風邪をひいて自然回復させると（3～7日で熱は下がる）、体内のアレルギー抗体がどんどんと少なくなって内面的な免疫過剰は低下することになる。風邪をひき熱が出ると、皮膚表面の黄色ブドウ球菌群は棲息できなくなり、一時的に皮膚はきれいになる。（平熱になると再度症状は出てしまうが）子どもは多くの菌を取り込み、風邪をひくのが仕事。風邪薬を服用するごとに免疫過剰調整は出来ず、根源である腸内細菌も異常減少することになる。風邪薬には気をつけろ！

## ⇒ 鼻呼吸を心がける！

これをするか否かで、症状回復スピードは大きく差が出る。鼻は、体のエアークリーナー。車でもエアークリーナーを通過させなければすぐにエンジンは壊れてしまう。

人間の体も一緒なんだ。口呼吸では、空気中の雑菌や外敵が直接侵入する。当然体は、侵入を

防ぐために免疫反応を起こす。アトピーの方は、皮膚症状に大きく関与することになる。どんなに症状が悪い方でも、鼻の頭だけ正常な皮膚をしているのは鼻粘膜を守るためである。

## ➡️ 赤ちゃんの「ひじっこ&ミトン」禁止!

赤ちゃんの掻痒行為を正視する事が出来ずに、インターネットで「ひじっこ」を見つけ購入する。また、手袋(ミトン)をすれば、傷がつき辛いだろうと同様に購入する。この使用が、改善を大きく妨げることになることを知らない。当然、掻かなければ傷は付かないが、大人でも痒いところに手が届かなかった場合はどうなるだろう?

そこに手が届かない…。自分の神経はその場所に手が届くように脳から指示しているが、解決できない日が続けば…大人でも我慢できない痒みを子どもが絶えているのに…。ましてや24時間続く痒みを解決できなければどうなるのだろう。「ひじっこ」を使用した多くの子どもは、「三白眼」になっている子が多い。自律神経がアンバランスとなるのだ。(親が掻いて傷つく子どもを見たくないという我が侷) ミトンにおいても痒みを解決する方法ではない。痒みに対応するためについている「爪」はそれなりの形をしているのだ。幅の大きい摩擦によって痒みを止めるには強い力で掻かなければ止まらない。自然と幅広く傷がつき、炎症範囲はさらに広がることになる。痒みは「痛い」と感覚すれば止まるのだ。だから、爪で掻かせることが一番である。細かい傷は瘡蓋になって、細菌感染を防ぎその部分の痒みは少なくなる。(ただし、瘡蓋との境界部分は痒みが出る)

少々悪化しても構わない。自然と解決できる力を子どもは持ち合わせている。親の我が侷で子どもの神経を狂わせるな。アトピーの大本の原因は「自律神経」だから。この解決なしには克服なし!

## ➡️ 胸を張れ! ①

頸椎1番2番から出される神経線は、顔・肩・腕・手・胸の症状に大きく関与している。胸を張って10kg以上ある頭の重みを支えている頸椎筋肉を和らげて、神経の流れをよくすることが必要なのだ。立位状態で体の真ん中に頭が来るようにすれば、肩こりも首のこりもなくなり、流れは良くなる。しかし、背中が曲がると頭は体の前に出て、それを支える筋肉は硬直することと、自然と神経の流れは悪くなり、上記場所の細胞活性も出来なくなる。胸を張ろう! 胸を張れば、笑顔も多くなる。元気も出る。前向きな考え方になる。

## ➡️ 胸を張れ! ②

この形だけでアトピー改善した方は多くいる。免疫の司令官「Tリンパ球」は、胸腺で活性される。アトピーの内因は、免疫過剰。この胸腺活性で免疫過剰は正常化される。胸を張れば、胸腺は活性され代謝率も30%程度上昇する。アトピー克服の条件のひとつでもあり、胸張っている人にアトピーや免疫低下の癌患者はいない。

- ▶ 胸張ればマイナス思考にはならない
- ▶ 胸張れば溜め息が出ない
- ▶ 胸張れば元気な顔になる

- ▶ 胸張れば身長体重が一定になる
- ▶ 胸張れば他人の長所が良く見える
- ▶ 胸張れば…とにかく元気になる!

## ➡ 外に出ろ!

体内時計が合わなければ季節の変わり目で症状が一転する。体温調節できることが克服のキーポイントとなる。できれば、朝一番に外に出て、交感神経のときに体内時計を合わせれば回復は早くなるのだ! 人間の体は、この信号受けることで正常に働くのだ!

信号は磁力線なのだ! 鉄筋鉄骨の部屋で閉じこもれば、信号は一切受けられなくなり体温調節が出来なくなる。強い信号の出る南の島や赤道に近い場所へ移動すると体は大きく活性化して回復することが見られる。これも、磁力線の強さなのだ! 試してみい~!

外に出ろ~! 働け~! 学校行け~!

## ➡ 花になれ、蝶になれ、鳥になれ!

人間も生きるシステムは一緒だ! 「花」も「蝶」も「鳥」もカレンダーも時計も持ってはいないが、正確に季節を感じDNA通りに一生をおくっている。彼らなりに感情もストレスもあるだろうが、生きる目的を全うしているように見える。人間にカレンダーや時計がなければもっと自然を感じられるようになり、病気もストレスも少なくなるのだろうが…一度リセットしなければ無理だろうねえ。

## ➡ 温度差には気をつけよ!

体温差、部屋内外気温差は必ず「15度」以内が理想! 15度以上を越えると、自律神経が逆転して体温調節が出来なくなることが多い。アトピー症状が酷い方ほど皮膚での温度感知が不安定となり、逆信号を送ることが多く見られる。夏季のように外気が高いときには、本来体は常に汗をかけるようにして体温を一定にするのが正常な体だが、皮膚炎症が多いと逆に閉じ込めて、一気に体温が上昇して、異常な痒みが発生する。

夏は部屋内の温度を下げすぎていると、暑い外に出たとき体温は一気に上昇して異常な痒みが出る。冬季は、寒い外から暖かすぎる部屋に入るとき、体温は異常となり痒みが出る。アトピーは、暑い場所への移動を気をつけることだ。喘息はその逆となり、寒い場所への移動時に発作などが起きる(ストレスとなる)。外に出て体内時計を合わせていないと、春や秋の季節の変わり目に体が逆転して、夏に冬の体となり、異常な暑さを覚える。逆に冬は夏型の体となり、異常な寒さを感じることになる。エアコン設定は「27度」、寝苦しいときは致し方ないが、極力使用しないことだ。暑いけど外に出て歩く! 胸張って!

## ➡ 不安は大損!

第二次性徴期を越えた体は、その個人の思いを持って体は動く。「調子悪いなあ…まだ悪くなるんだろうなあ不安だなあ…」と思えば、体の活性は殆ど見られない。「この悪化は、これが原因

だ。もう少しすれば良くなる」と思えた瞬間に、体は活性をはじめだす。そして、大きな悪化は見られない。それには、ある一定の知識は必要となる。腸内細菌やミネラルは勿論、体の仕組みや自然との関連なども理解することが必要となる。

病院などの対処治療や写真などを見せて良かった結果だけを見て治療を始めれば、症状の上下で精神的な上下も起きて、症状が悪化したときなどは自分では解決できなくなる。すぐに不安が解消できる場所（指導者）を持つことが重要となるのだ。医師では、解決の「か」の字にもならない。逆に不安をあおる医師が99%となっている。不思議だ。

それを支える家族の理解も重要となり、叱咤激励も薬になるのだ。また、思い続けられる一つの形は「胸張り」でもある。前向きにしか考えなくなるのだ。不安が強くなると背中が曲がるし、目に力がなくなる。

---

### ➡ 歩け歩けえ！

静脈安定は歩きの筋肉運動。静脈血流の安定は、細胞活性＝皮膚回復動脈は心臓のポンプに押されて安定して流れるが、静脈は血圧ゼロのため、何かの圧力を補助しなければ流れない。それは筋肉運動しかないのだ。静脈血管は、逆止弁がついていて、逆流しないようになっている。筋肉の収縮で血管が抑えられて血液を運ぶ。筋肉の収縮が心臓代わりのポンプとなるのだ。動脈血管は太く厚いが、静脈血管は細くて薄い。圧力がかからないからだ。いくら心臓の圧力によって各細胞へ酸素と栄養分を運ぼうと、細胞からの不要物の排泄が静脈から出来なければ、心臓にも負担はかかってくるし、動脈にもかかる。

新陳代謝がよくなければ細胞は活性しない。当然、皮膚も細胞なので、静脈の活性は重要となる。歩け歩け…皮膚活性のために。ただし、急激に負担のかかる運動はよくない。熱代謝が出来なくなり異常な痒みや湿疹が出来る恐れあり！気管も収縮することも多く見られるので…気をつけよう。やっぱり、ゆっくり歩くことだね。日差しの強い日は、日傘などさしてのんびりと。朝の散歩を日課にすると、早起きと歩きと体内時計正常化と一挙にクリアできる。

---

### ➡ 「三白眼相」はミネラル不足！

自律神経系に重要なミネラル「マグネシウム」が不足すると、「三白眼相」となる。痒みやストレスから来る活性酸素の大量発生で、マグネシウムは激減する。多くの面談でこのことが、克服の目安ともなる。そして、現状のアトピー症状位置を示すものでもある。背中が曲がっても三白眼相となるし、砂糖摂取が多すぎてもなる。この状況で、緊張が走ったりすると血流は一気に早くなり、自律神経系の作用がアンバランスとなって、驚くような言葉を発したり、狂暴になったりもする。神戸の殺人事件<サカキバラセイト>も砂糖過剰摂取が一因にある。

まずは、胸張って、砂糖摂取をせずにミネラルバランス調整が必要だ。すると、季節の変換期に顔相は安定して、言葉も行動も穏やかになる。ストレスも溜まり辛くなるのだ。

さあ、胸張ろう！歩こう！ミネラル摂取！